

別紙 企画展「弥生の顔と身体表現」主な展示品

	1 絵画・記号土器【重要文化財】 朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区） 弥生時代後期 本館蔵 全面にイレズミが施された顔が表現されている。上下に穴が2つずつ開けられており、土器の蓋として用いられた可能性がある。
	2 盾持人埴輪【桜井市指定文化財】 たてもちびと ちはらのおほか 茅原大墓古墳（奈良県桜井市） 古墳時代前期 桜井市教育委員会蔵 盾を持つため、古墳を守っていると考えられ、笑っている顔は辟邪（へきじゃ）（邪悪なものを避ける）の表現だと考えられている。
	3 木偶【滋賀県指定文化財】 もくぐう だいなか こみなみ 大中の湖南遺跡（滋賀県近江八幡市） 弥生時代中期 滋賀県立安土城考古博物館蔵 近江地域では、木製品に男女を表現した木偶が見られる。墓域（ぼいき）で見つかることから、祖先の霊を表現したものと考えられている。
	4 土偶 はちおうじ 八王子遺跡（愛知県一宮市） 弥生時代前期 一宮市博物館蔵 眉と鼻は隆起帯（りゅうきたい）で表現され、目の周りにイレズミが表現されている。本資料は弥生時代前期の資料であるが、目の周りにイレズミを表現した土偶は、縄文時代の終わり頃から出現していた。
	5 人面文土器 ひめした 姫下遺跡（愛知県安城市） 古墳前期 安城市教育委員会蔵 土器の体部に描かれた、顔の表現と考えられる。中央部に瞳のない目が描かれ、目の周りにイレズミが施される。
	6 人面文土器（複製品） いまじゆく 今宿遺跡（岐阜県大垣市） 弥生時代終末期 安城市歴史博物館蔵（原資料は岐阜県文化財保護センター） 土器の体部に描かれた顔の表現に、左右の耳まで含まれる。左耳は右耳に比べて、複雑な文様を描くことが多く、左耳に何らかの意味を見出していたのかもしれない。
	7 邪視文土器 じゃしもん かめい 亀井遺跡（大阪府八尾市） 弥生時代中期 大阪府立弥生文化博物館蔵 邪悪なものを避ける辟邪の表現と考えられる。目の中には瞳も表現されている。
	8 人面文壺形土器 附 線刻土器片【重要文化財】 （人面文壺形土器は複製品） かめい 亀塚遺跡（愛知県安城市） 弥生時代終末期 安城市歴史博物館蔵 壺の体部に表現された顔が完全な形で残っている。顔の輪郭に瞳のない目、目の周辺に描かれたイレズミや、耳飾りの表現など、人の顔が細かに描かれている。

	9 分銅形土製品 ふんどうがた かきまどころ 加茂政所遺跡（岡山県岡山市北区） 弥生時代中期 岡山県教育委員会蔵 分銅形土製品は瀬戸内海周辺や山陰地域を中心に出土する。人の顔を象った資料と考えられており、本資料は目・口・鼻・眉が分かりやすく表現されている。
	10 木製仮面【奈良県指定文化財】 まきむく 纏向遺跡（奈良県桜井市） 古墳時代前期 桜井市教育委員会蔵 本資料は、木製盾、木製鎌柄と共に出土しており、鬼や悪霊を追い払う役割を担う方相氏ほうそうしが付けた仮面とも想定されている。
	11 人面付土器【茨木市指定文化財】 めがき 目垣遺跡（大阪府茨木市） 弥生時代中期 茨木市教育委員会蔵 壺形土器の上部に取り付けたと考えられる顔部分。中は空洞になっており、本資料は頭部が閉じているが、開口する例もある。
	12 人面文土器 めいじょうこうえん 名城公園遺跡（愛知県名古屋市北区） 古墳時代前期 愛知県埋蔵文化財調査センター蔵 土器の体部に顔が表現されている。顔の輪郭はなく、上部に鋸歯文きょしもん（鋸の歯のように連続する三角形の文様）のある冠や結い上げた髪が表現されている。
	13 人面線刻土器 みぞくい 溝咋遺跡（大阪府茨木市） 弥生時代中期 大阪府教育委員会蔵 土器の肩部の破片と考えられ、線刻で顔が描かれている。目と鼻と口が表現されているが、イレズミが描かれていない。
	14 人面付土器 しまだじんや 島田陣屋遺跡（愛知県新城市） 弥生時代中期 愛知県埋蔵文化財調査センター蔵 土器に取り付く顔部分。赤彩が残存していることから、全面赤彩されていたことが分かる。
	15 土偶形容器 しもはしか 下橋下遺跡（愛知県安城市） 弥生時代中期 愛知県陶磁美術館蔵 乳幼児の骨壺として使われる土偶形容器。脚部は欠損しているが、身体の背面も細かく表現されている。中は空洞となっている。
	16 黥面土偶【岡山市指定文化財】 つでら 津寺遺跡（岡山県岡山市） 弥生時代後期 岡山市教育委員会蔵 顔にイレズミが施された土偶の頭部。両目の上下に弧状の線が描かれ、口の脇や顎、頸にまで数本の線刻が見られる。

※全て本館撮影